



# 環 境

Environmental Report

# 報告書

2009

おいしい笑顔をお届けします

# シマダヤの商品がお手元に届くまで

シマダヤグループでは、小麦をはじめとする原材料や資材、水や燃料などの資源およびエネルギーなどを購入し、商品を生産・販売しています。商品がお客様のお手元に届くまで、各段階で様々な環境負荷がかかっており、シマダヤグループでは



を大きな課題としてとらえています。



## 会社概要

社名 シマダヤ株式会社  
 設立 1949年3月  
 資本金 10億円  
 代表者 代表取締役社長 木下紀夫  
 従業員数 286名(2009年3月現在)  
 事業内容 めん類及び関連食品の販売  
 本社所在地 東京都渋谷区恵比寿西1-33-11  
 売上高 359億円(2009年3月期)  
 事業所数 本社:1  
 支店:3  
 ロジスティクスセンター:1  
 開発研究所:1  
 事務所:1  
 URL <http://www.shimadaya.co.jp>

社名 東京シマダヤ株式会社  
 設立 2004年4月  
 資本金 5,000万円  
 代表者 代表取締役社長 大星由雄  
 従業員数 96名(2009年3月現在)  
 事業内容 ゆでめん類製造・販売  
 所在地 東京都昭島市武蔵野2-1-22

社名 宮城シマダヤ株式会社  
 設立 古川工場:1972年10月  
 郡山工場:1989年11月

資本金 1億円  
 代表取締役社長 伊藤徳義  
 従業員数 古川工場:131名(2009年3月現在)  
 郡山工場:89名(2009年3月現在)  
 事業内容 ゆでめん類製造・販売  
 所在地 古川工場:宮城県大崎市古川塚目字北原56  
 郡山工場:福島県本宮市白岩字理内930

## 対象範囲

対象組織 シマダヤ株式会社  
 東京シマダヤ株式会社  
 宮城シマダヤ株式会社古川工場  
 宮城シマダヤ株式会社郡山工場  
 対象期間 2008年4月～2009年3月  
 (活動については直近のものを含む)  
 対象分野 環境的側面に関する事項  
 発行 2009年8月発行(前回発行2008年8月)  
 (次回発行は2010年8月予定)

## 編集方針

シマダヤでは2006年より「環境報告書」を発行しています。本レポートは、シマダヤおよび子会社工場の環境保全活動を中心に報告しました。今号より従業員の声を掲載し、より取り組みの内容がわかる編集を心がけました。

# 社長ごあいさつ

2009年度は2007年度にスタートした中期環境目的・目標の仕上げの年。  
木下社長にこれまでの成果を振り返っていただき、  
今後の環境取り組みやシマダヤグループの目指すべき方向について伺いました。



代表取締役社長

木下 紀夫

**Q** 中期環境目的・目標の取り組み  
2年目となる2008年度の結果  
および最終年度となる  
2009年度の取り組みについて  
お聞かせください。

**A** 2008年度の取り組みは、全体としては順調に推移したと  
思っています。ただ、個別の目標は、廃棄ものの重量削  
減や炭酸ガスの排出量削減のようにできていることと、容器包  
装の重量削減のようにできていないことがあります。特に容器包  
装の削減については安全性や製品価値にも影響しかねないた  
め、慎重にやっていかなければならないと考えています。

当社の環境取り組みの目的は、数値目標の達成はもちろんで  
すが、シマダヤグループの全従業員が環境への意識を高めて  
いくことにあります。私の見るところ、従業員の意識改革はこれま  
での取り組みを通じて徐々に進んでいます。まだ十分ではありません。  
3年目となる2009年度はグループ全従業員がベクトルを  
合わせて取り組むことが重要です。そのためには現場の長であ  
る部門長の意識向上が不可欠であり、私も折にふれて言及し  
ていくつもりです。また、中学生の企業訪問受け入れや地域住  
民を対象にした手打ちめん体験の実施など、社会貢献活動に  
も注力していきます。

**Q** 2010年度から始まる  
次の中期環境目的・目標に  
ついてどのようにお考えですか。

**A** シマダヤにとって2009年は会社設立60周年、2011年は  
創業80周年の記念すべき年にあたります。そこで、企業  
の継続的な発展を目指し、2009年度から2011年度までの3か年  
を対象とする中期経営計画「シマダヤ NEW STAGE 80」を  
策定しました。次の中期環境目的・目標はこの経営計画と連動し  
た戦略の一つと位置付けて推進していきます。

現在の市場環境は変化が激しく、価格競争による値下げ  
圧力が更に増してきています。シマダヤの使命は品質が良く  
適正な価格の製品を提供することによってお客様の選択肢を  
広げ、製品の価値を高め、食文化の発展を支えていくことにあ  
ると考えます。そうした企業姿勢を伝えるためにも環境取り組  
みが重要だと思っています。

**Q** グループ全体で取り組むことの  
意義をお聞かせください。

**A** シマダヤグループは、シマダヤを核に18のグループ工  
場で構成されています。シマダヤブランドの製品を製造  
するのは工場であり、環境取り組みは製品の品質を担う工場  
でも不可欠と考えています。このため、2008年度に宮城シマダヤの  
2工場がISO14001を認証取得したのを皮切りに、中部シマダ  
ヤ、エス・エス・デリカ、埼玉シマダヤなどの製造工場環境取  
組みを順次スタートしています。

シマダヤブランドの  
価値を高める  
環境取り組みの実践へ

ただし、環境取り組みは一気にできるものではありません。  
できるところから一歩ずつ進めていくことにより、グループ全体  
へ、更に従業員からその家族へと活動の輪を広げていきたい  
と考えています。また、食の安全・安心についても国際食品規  
格に基づく独自のシマダヤHACCPをグループ工場に適応し、  
厳しい管理を行っています。

**Q** シマダヤのステークホルダー  
について、また、今後のシマダヤの  
あるべき姿について、  
お考えをお聞かせください。

**A** シマダヤグループは、お客様、株主、お取引先、従業員、  
地域社会など様々なステークホルダーに支えられていま  
す。従業員がハッピーになれる企業として今後も継続して成  
長するためには、全ての従業員の質を上げて、株主の皆様や  
お取引先様に信頼してもらうことが大切であります。お客様の  
ニーズは多様化しており、お客様にシマダヤ商品を選んでい  
ただくためには、更に製品、セールス、企業の質を高めていく必要  
があります。

シマダヤグループが目指すのは、製品、人材ともに優れた質  
の高い企業です。そのために「おいしい笑顔をお届けします」  
という企業コンセプトのもと、「シマダヤ7つのビジョン」を作成し、  
実践しています。こうしたCI活動や環境取り組みを通して  
グループの結束力を強め、お客様に選ばれ、従業員が誇りをも  
てる企業に成長していきたいと思っております。



# 中期環境目的・目標 2年目進捗状況

シマダヤでは全社をあげて更に取り組みを強化すべく、環境基本方針に沿って、2007年に3カ年にわたる全社の「中期環境目的・目標」を策定しました。全社の「中期環境目的・目標」をもとに、各部門で業務に合った目的・目標を設定し取り組んでいます。2008年度、2年目の達成状況は下記のとおりです。

## シマダヤグループ環境基本方針

### 環境理念

小麦とそばと塩と水。「めん」は自然の恵みそのものです。  
シマダヤグループは、自然環境と企業活動の調和の重要性を認識し、めんを中心とする事業活動を通して環境保全に取り組み、健全で豊かな社会の実現に貢献します。

### 環境行動指針

- |   |   |   |  |   |
|---|---|---|--|---|
| <b>1 環境関連法規の遵守</b><br>社会の一員として環境保全に取り組み、環境関連の法規制その他の要求事項を遵守します。 | <b>2 資源、エネルギーの有効利用</b><br>資源、エネルギーの節約、有効利用に取り組みとともに、廃棄物の削減、再資源化により環境への負荷の低減に努めます。 | <b>3 継続的な環境改善</b><br>事業活動のあらゆる面において環境に配慮し、絶えず見直し、継続的な改善に努めます。 | <b>4 環境保全意識の醸成</b><br>情報収集及び教育を徹底的に行い、従業員一人ひとりの環境に対する意識の向上に努めます。 | <b>5 情報の公開</b><br>環境基本方針及び環境保全活動に関する情報を広く社内外に開示します。 |
|---|---|---|--|---|

## 中期環境目的・目標 2年目進捗状況

中期目的 (2009年度までの目的)	2008年度目標	単位	実績				自己評価	
			基準年	2008年度	削減量	削減率		
廃棄めん重量削減 50%削減 (2005年度比) (1,078ton→539ton)	40%削減 (シマダヤ△184ton 東京シマダヤ△244ton) [原単位] △0.263(シマダヤ) △3.41(東京シマダヤ)	シマダヤ	ton	467	167	△300	64.2%	◎
		東京シマダヤ	ton	611	230	△381	62.4%	◎
		合計重量	ton	1,078	397	△681	63.2%	◎
		シマダヤ(原単位)	g/食	0.658	0.241	△0.417	63.4%	◎
容器包装重量削減 30%削減 (2004年度比)(2,693ton→1,885ton)	20%削減 (△539ton)(原単位△1.19)	使用重量	ton	2,693	2,289	△404	15.0%	×
		(原単位)	g/食	5.97	5.11	△0.86	14.3%	×
余剰資材金額削減 30%削減 (2005年度比)(58.9百万円→41.2百万円)	20%削減 (△11.8百万円)(原単位△0.334)	廃棄金額	百万円	58.9	48.0	△10.9	18.5%	×
		原単位	千円/百万円	1.670	1.333	△0.337	20.2%	○
炭酸ガス排出量削減 10%削減 (2005年度比) (8,840ton→7,956ton)	7%削減 (シマダヤ△154ton) (東京シマダヤ△466ton) [原単位] △0.217(シマダヤ) △6.50(東京シマダヤ)	シマダヤ	ton	2,201	1,758	△443	20.1%	◎
		東京シマダヤ	ton	6,639	5,862	△777	11.7%	◎
		合計重量	ton	8,840	7,620	△1,220	13.8%	◎
		シマダヤ(原単位)	g/食	3.10	2.53	△0.57	18.4%	◎
		東京シマダヤ(原単位)	g/食	92.8	84.6	△8.2	8.8%	○

## その他の取り組み

社会貢献の拡大	管理部門	中学生の企業訪問受入、地域住民とのコミュニケーション、エコキャップの回収、お客様の声検討会議の継続	○
	子会社		
社会等へ間接的な環境影響を及ぼす目的	管理部門	業務効率化によるOA用紙の削減	○
	全部門	廃棄物の分別・リサイクルの推進、法規制等の遵守、継続的な教育	○
	子会社	水使用量削減、騒音対策をはじめとした地域環境保全	△

子会社炭酸ガス排出量 (ton)	前年比	原単位	前年比
31,364	93.8%	94.0g/食	94.8%

※炭酸ガス排出量は、活動におけるエネルギー使用量を炭酸ガス排出量に換算した数値です。なお換算係数は、「事業者からの温室効果ガス排出量算定ガイドライン」に準拠しています。

## グループでの取り組み

シマダヤでは、商品の企画、研究・開発、品質管理、受発注、物流管理、営業および事務の業務活動を行っています。そして、製品の製造は、シマダヤグループ内の連結子会社5社とその他の複数の会社に委託しています。

2004年のスタートより、シマダヤと東京シマダヤで、それぞれの業務活動による環境負荷の低減を目指して取り組みを進めてきました。めん類の製造には、加熱や冷却・冷凍のためにボイラー燃料や電気などのエネルギー、並びに井戸水などの天然資源を大量に使います。シマダヤグループ全体で製造工場の環境負荷を検証したところ、その影響は非常に大きいことがわかりました。そのため、2008年度よりシマダヤと東京シマダヤだけではなく、その他の製造部門の子会社工場についても、環境負荷の低減を目指し

共に活動を始めることになりました。

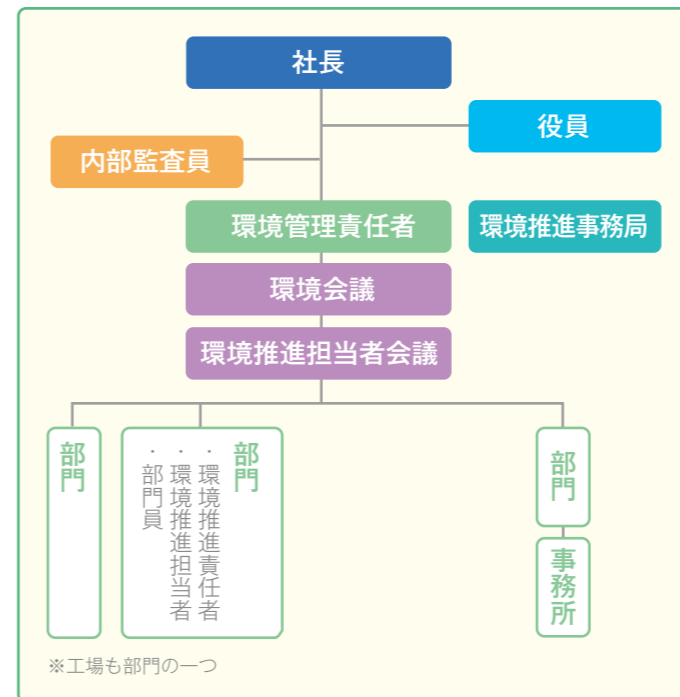
まず2008年夏に、宮城シマダヤ古川工場と郡山工場において、キックオフを行い環境取り組みを開始しました。シマダヤの環境マネジメントシステムに適合させるため数回にわたり打合せを行い、必要な文書や手順書を作成し、従業員に対する教育などを実施しました。

2009年3月にISO14001のシステム変更確認審査を受け、シマダヤの適用事業所として認証されました。シマダヤでは、部門毎に目的・目標を持って取り組みを行っています。工場も、シマダヤの一つの部門として同じ方向を目指して活動を推進していきます。2009年度は、岐阜県と千葉県および群馬県の工場の認証を目指し、準備を進めています。

## 環境取り組みの歩み

2004年7月	ISO14001審査登録(認証取得) [シマダヤ、東京シマダヤ]
2006年4月	商品開発における環境基本理念／環境に配慮した商品開発のための基本指針策定
2007年2月	ISO14001審査登録更新
2007年4月	中期環境目的・目標取り組み開始
2008年7月	グループ会社へ環境取り組み拡大開始
2009年3月	ISO14001登録範囲拡大 [宮城シマダヤ]

## 環境推進組織図



## 活動の推進役と役割

全社の推進役	社長	全社の活動の最高責任者 シマダヤの社長
	環境管理責任者	全社の活動の責任者
	環境推進事務局	環境管理責任者の補佐
部門の推進役	環境推進責任者	部門活動の責任者 原則として部門長、並びに子会社の社長、または工場長
	環境推進担当者	部門活動のリーダー 各部門1名以上
事業所の推進役	事業所責任者	事業所単位の課題に関する責任者 複数部門が属する事業所や環境推進責任者のいない事業所(事務所など)に設置

# 廃棄めん 重量削減のために

2008年度、製造工場では継続して、廃棄となる製品を出さないよう努めています。またシマダヤでは賞味期間の長い冷凍めんの廃棄を減らす活動を主に行いました。

## 廃棄めんの発生の原因と削減の取り組み

### 製造工場の取り組み

工場では、製造ラインでの機械の調整不良、包装不良などにより、商品として出荷できずに廃棄となるめんが発生することがあります。

めん機室では1gの生地、1本のめん線を、ゆで室ではめん機室から切り落とされためん線を1本も無駄にせず包装工程へ、包装室では1食・1パックの無駄を出さないように作業することが求められます。

#### 〔東京シマダヤ〕

2005年度比55%削減に向け、設備の保守点検、従業員の教育など、数多くの項目について計画を立て、取り組みを実施しました。その結果、2008年度は61.1%削減(原単位)と目標値を大きく達成できました。主な取り組みとしては、製造ラインでの1食から2食、もしくは2食から1食への切り替えをなくすために、製造スケジュールの調整により、1食用・2食用の製造ラインを固定化することで、切り替え時の廃棄を削減する事ができました。

#### 〔宮城シマダヤ〕

古川工場では、歩留まり向上を目的とした設備改善を実施しました。製めん機の改良により、製品として使用できない短いめんの発生抑制、並びにゆで時のロスの削減に取り組みました。しかしながら、ラインのトラブルによる量目不良品発生などもあり、工場全体では、2007年度比5.7%(原単位)増加しました。

郡山工場では、設備トラブルの削減を目指し、機械や設備の保全を目的とした社内教育の実施や、資格の習得を促進しました。また量目不足削減のため、適正人員の配置、季節によって変化する製造条件に対応した設備改善やめん量目調整を正確かつタイムリーに行えるよう、最終製品の重量監視装置(ウェイトチェッカー)の数字が、めん機室で直接確認できるようバックアップモニターの設置を行いました。しかしながら、予定外の新規設備の故障や新商品の試作による廃棄が発生し、2007年度比20%削減目標に対し結果3.1%削減(原単位)と達成できませんでした。

### 冷凍物流の取り組み

シマダヤの冷凍めん(業務用)は、東北1カ所、関東2カ所、中京1カ所、近畿1カ所の計5つの委託先並びに取引先の倉庫を拠点に、お客様に向け出荷されています。地域性や天候、個々のお客様の注文状況によって、取り扱う150アイテムの各倉庫の出荷状況も変わってくるため、製造を委託する際に発注担当が全倉庫の在庫を見て、製造工場やアイテム・数量の調整をしています。

2008年度は、在庫が過剰なアイテムは、出荷が好調な他の倉庫へ移動させて賞味期限日までの日数が短いものが発生しないようにしました。更に季節商品などは、各営業部門と連絡を密に行い、廃棄を減らしました。

このように、定期的に出荷状況の確認と倉庫在庫をチェックし早めの対応をすることで、販売できずに廃棄となる商品の削減に努めています。



東京シマダヤ株式会社  
製造課  
富澤 健太郎

### 従業員の声

東京シマダヤでは、製造ラインで発生する工程廃棄に削減目標を掲げ、歩留り向上とともに重要な管理項目としていろいろな取り組みを行っています。2009年度の目標数値は2005年度比55%削減です。現在の進捗は62.6%の削減となっています。また、工場の製造工程で発生した廃棄めんを、できる限り飼料化できるように取り組みを進めています。ISOのプロジェクトは6名で進めています。工場全員で取り組みが進められるようにしていきたいと思っています。

# 容器包装および 余剰資材削減のために

シマダヤグループでは、商品の容器包装重量の削減や、製造段階で資材を適正に利用し余らせないための取り組みを実施しています。

## 商品開発を通じた容器包装削減への取り組み

2008年度についてはシマダヤグループ全体で容器包装重量を2004年度比で20%削減することを目標としました。具体的には、

- ❶ 「鉄板麺」・中華焼ビーフン・生そば・生うどん等の外包装を25~33%薄くする
- ❷ 2食の巾着商品について包装の長さの短縮(約10mm)の2点を主な取り組みとして実施しました。

以上の結果、目標は未達だったものの2004年度と比較して15%(実に404トン分)の容器包装重量を削減できました。2009年度以降は、

- ❶ ラーメン類の内袋の長さの短縮
- ❷ 3食冷し中華の外包装を薄くする
- ❸ 調理めんの容器を簡素化する

などを行い、2004年度比30%削減に向けて取り組みます。

今後も安全性や品質などと同様に環境に配慮し、また一方でコストダウンが実現できる商品開発を双方向で取り組んでいきます。



シマダヤ株式会社  
研究開発部長  
小原 伸之

### 従業員の声

研究開発部では、環境活動の一つとして、包装フィルムサイズの短縮をはじめ、様々な取り組みによる容器包装重量削減の検討を行っています。

商品の包装は、商品の顔であるのももちろんのこと、めんを光から守るなど、品質を保持したり、流通時での破損を防いだりと、様々な役割があります。また、工場での製造で不具合がないようなものでなければなりません。お客様には、分別しやすく、なるべく廃棄量が少ないものであることが望ましいと思います。それらの機能は損なわないように、材質等を選定し、いかに包装重量を削減し、環境への負荷を低減するかを、検討しています。

また、工場と連携しながら、省エネルギーラインの検討も進めており、シマダヤグループ全体での環境負荷の削減に努めています。

## 製造段階における余剰資材削減への取り組み

資材の発注から、工場に納品するまで平均2週間を要します。このため、資材を切らさないよう在庫を常に置きながら、次に注文する数量とタイミングを原材料部と資材メーカーで調整しています。

2008年度は、

- ❶ 管理表を使用し、メーカーとの情報共有
- ❷ 製造工場からの月末資材在庫報告および製品在庫報告
- ❸ 出荷実績と販売予測情報の把握

について重点的に取り組みました。

余剰資材の廃棄は、2005年度比金額で20%削減目標に対して18.5%削減、売り上げに対しての余剰資材額(原

単位)20.2%削減となり、廃棄金額では未達、原単位廃棄額では達成でした。

余剰となり廃棄される資材は環境負荷増、コスト増とマイナス要素です。中期環境目的3年目の2009年度の目標は、余剰資材金額2005年度比30%削減です。2008年度の取り組みを更に充実させ、また、開発・販売・製造部門と資材情報・販売情報・調達課題を共有化し、対策案を見出し削減目標の達成に努めます。

# 炭酸ガス排出量削減のために

炭酸ガスの排出量を削減するために、工場では主に重油の使用量削減、オフィス部門では電気使用量の削減を目指して活動しています。

## 工場での取り組み

各工場では、重油使用量の削減のために、主にボイラーの使用方法の見直しを実施しました。

### 〔東京シマダヤ〕

東京シマダヤでは、製造状況に合わせたボイラーの起動・燃焼方法を変更（時差での点火・低燃焼優先台数3台から2台に変更）し、重油使用量および燃焼の効率化を進め、2007年度比1.7%（原単位）削減しました。

また、ゆで時にめんが塊まってしまうことを防ぐためのほぐし工程を変更したことにより、エネルギー効率を改善しました。また、ボイラー蒸気配管の保温材およびパッキンの破損に対しても順次変更・交換を実施しています。

### 〔宮城シマダヤ〕

宮城シマダヤ古川工場では、現場の製造計画と併せて、パソコンによるボイラーの自動運転スケジュールによりきめ細かく、点火の制御を行いました。また、ゆで槽を小さくする

ことで、蒸気および水の使用量を削減しました。更に、製造中に排出されるゆで湯の熱を回収して、ゆで槽に補給する水温を上げることを目指しました。結果、重油使用量を2007年度比6.7%（原単位）削減しました。

郡山工場では、大型ボイラーを効率のよい小型のボイラーに更新し、ラインの稼働状況に合わせた必要最小限の運転が可能となりました。

また、ゆで湯から熱を回収し、ボイラー給水やゆで槽補給水の水温を上げ、ボイラーの効率アップと同時にゆで槽の蒸気使用量を削減させることなどにより、重油の使用量を2007年度比7.1%（原単位）削減しました。電気使用量は、冷凍機の負荷を軽減させるために熱交換器への再利用水による散水を行ったり、冬期には冷凍能力が余剰な設備の運転を停止させたりすることなどにより、前年比5%削減しました。

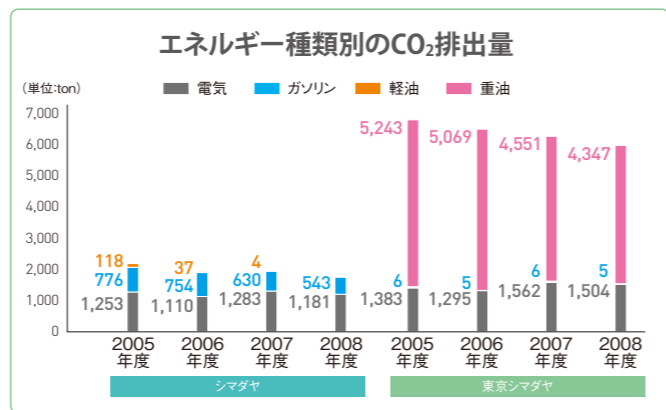
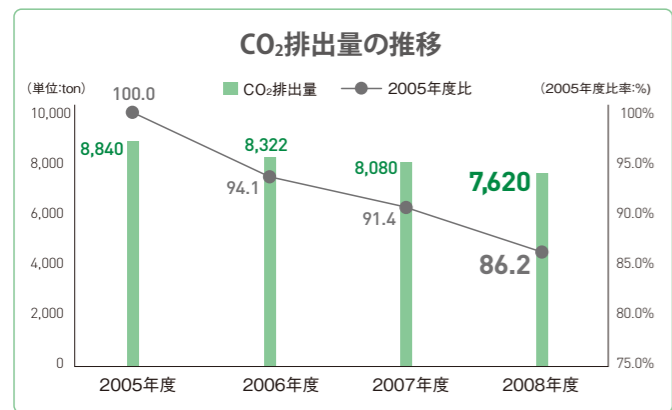
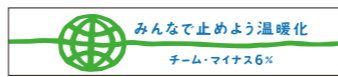
## オフィス部門での取り組み

シマダヤ本社では、2008年に当初から設置されていた古い空調設備を、新しい省エネ型の空調設備に変更しました。従来、フロアで一つの空調を使用していましたが、各フロアに複数台のエアコンを設置し、こまめな温度調整を可能にしました。また、昼休みの消灯や、退社時にはノートパソコンのプラグを抜くなどの細かな取り組みを引き続き実施しています。こうした取り組みにより、本社の電気使用量は、2007年度比約13,746kWh（約4.7%）削減しました。

営業活動においては、回訪の効率化、エコドライブの推進、社用車の台数削減などにより、ガソリン使用量の削減に

努めています。また、ハイブリッドカーなどの低燃費車の導入を進めており、現在18台（シマダヤ社有車の18.4%）となっています。

シマダヤでは、2006年8月から法人として「チーム・マイナス6%」に参加しています。従業員全員で、クールビズや節電・節水などに取り組んでいます。グループへの環境取り組み拡大に伴い、2009年4月以降、宮城シマダヤ、東京シマダヤ、中部シマダヤも法人として参加しています。



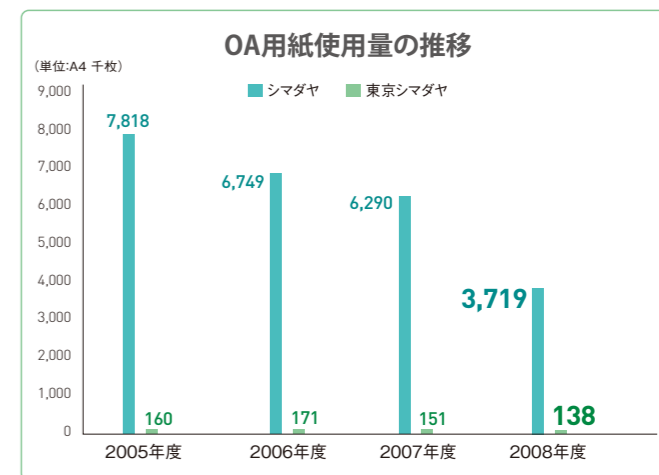
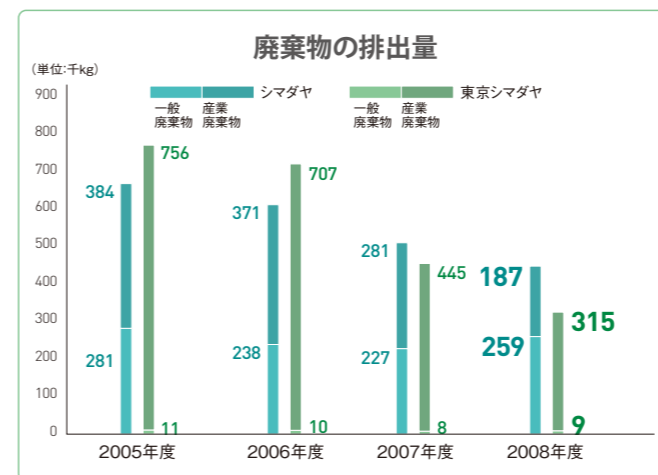
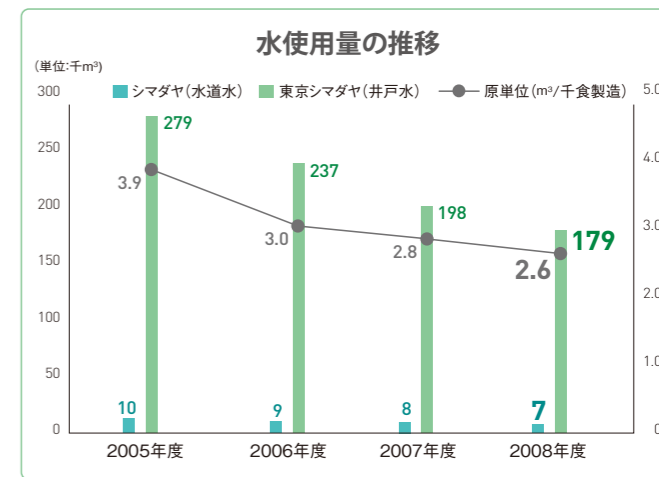
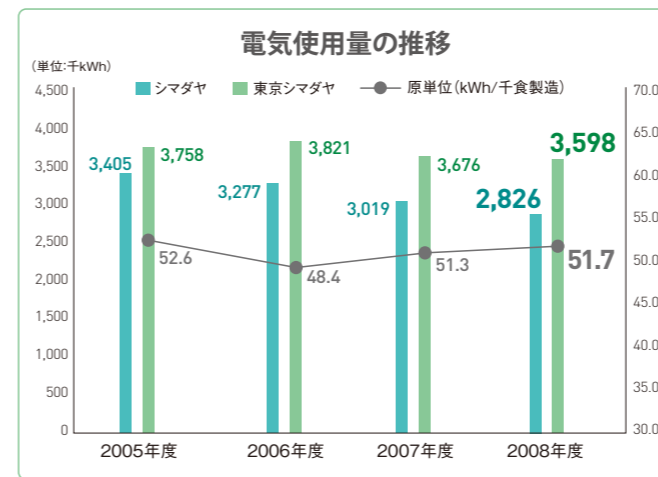
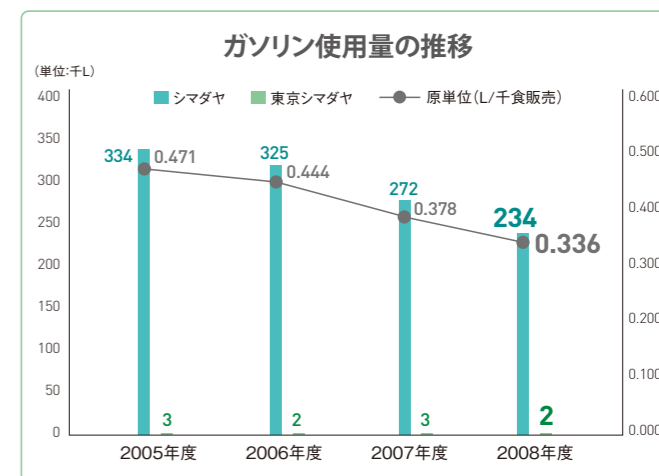
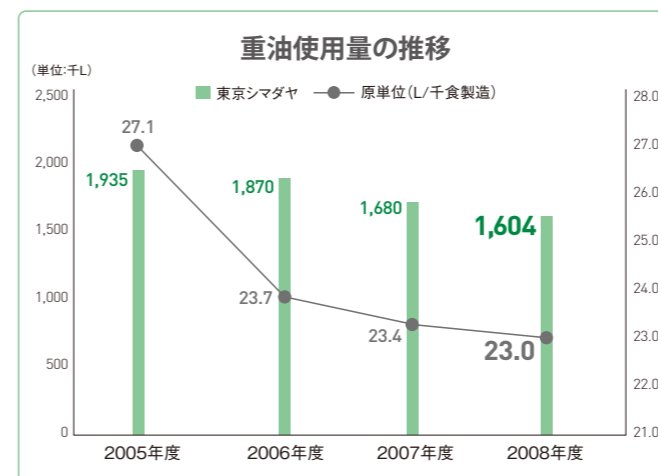
### CO<sub>2</sub> 排出量係数について

シマダヤおよび子会社の電気によるCO<sub>2</sub>排出量の換算係数は、東京電力は2008年度の係数、その他は所在地の電力会社の2007年度の係数を使用しています。

# 取り組みの成果

シマダヤと東京シマダヤの取り組みの成果を、グラフで紹介します。他の子会社の結果は、今後掲載していく予定です。

## 主な環境負荷指数



# 内部コミュニケーション

従業員に環境について興味を持ってもらい、自主的に活動できるようにするため、様々なコミュニケーションを実施しています。

## 環境推進担当者会議実施

シマダヤでは、各部門の環境推進担当者が参加する環境推進担当者会議を年3回開催しています。2008年12月には、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開かれた、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2008」に合わせて会議を実施し、午後は各自でエコプロダクツ展を見学しました。後日、見学した内容をレポートで提出してもらいました。先進的な他社の環境取り組みの展示を見学し、それぞれ様々な刺激を受けたようです。

また2009年2月の環境推進担当者会議では、各グループ



環境推進担当者会議でのグループワークの様子

エコプロダクツ展見学

に分かれそれぞれのテーマを議論するグループワークを実施しました。営業と工場の担当者および管理部門の担当者が意見交換し、それぞれの現状を理解し、2009年度の目標を立てるために様々な検討を行いました。



シマダヤ株式会社  
経営企画部  
島崎 正

### 従業員の声

「エコプロダクツ2008」を見学して、まず驚いたのは出展企業と来場者の多さであり、環境問題への社会的関心の高さが大変印象的でした。各企業とも独自の方法で自社の環境取り組みをアピールしており、来場者の目を引いていました。

また、会場では多くの子ども達も環境教育の一環として見学を行っていました。熱心に話を聞き、大人さながらの質問をし、楽しみながらエコを学ぶ姿勢に感心しました。

この見学を通して、当社も環境取り組みについての発信力をより強くしていく必要性を感じました。また、そのためにも環境問題を身近なものとして捉え、一人ひとりが知恵を出し合って環境活動に取り組まなければいけないという思いを強くしました。

## 内部監査について

年に1度、子会社も含み部門(工場)単位で内部監査を実施し、環境マネジメントシステムの維持向上に努めています。2009年4月現在、子会社を含め47名が内部監査員の資格を保有しています。

内部監査は他部門との交流を図ることも狙い、2名のチームで自身の業務とは異なる部門の監査を行います。監査チェックリストは統一の質問内容ではなく、内部監査員がそれぞれの被監査部門の業務内容に合わせた質問項目を作成し、監査を実施しています。その後、内部監査の結果を受け、

その年の成果を社長に報告し、指示を受け環境マネジメントシステムの見直しを行い、活動を改善しています。

また、(財)日本規格協会審査登録事業部による審査を受けた際、内部監査員に対する教育がよく、非常に有効な内部監査が実施されていると高い評価を受けました。



## eco検定受験の推進

シマダヤと東京シマダヤでは、これまでに14名が東京商工会議所主催のeco検定に合格しています。更に環境取り組みの子会社への拡大に伴い、環境知識を身につけた従業員

員を育成するため、2009年第6回の試験では子会社を含め39名がeco検定を受験しました。



従業員主催のeco検定直前対策講座

# 法規制等の遵守状況について

シマダヤグループでは遵守する法規制等を一覧にまとめ、年に一度関連部門は、チェックリストに基づき遵守状況を確認しています。



東京シマダヤ工場敷地内の復元した緑地

## 工場の騒音対策および緑地対策について

東京シマダヤでは2008年度、騒音については、ボイラー室およびコンテナ洗浄機の騒音低減を目的として、騒音対策会議で原因究明と管理方法について検討し準備を進めてきました。

ボイラー室周りの対策として、シマダヤ並びにボイラー業者を交え、検討・協議し防音工事を実施しました。その結果、敷地境界で平均5dB(デシベル)の騒音を低減することができました。

また、コンテナ洗浄機については、搬送コンベアのモーターのインバータ化を実施し、騒音低減に努めています。

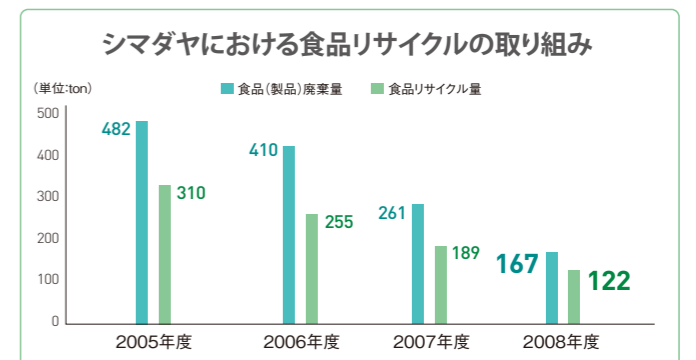
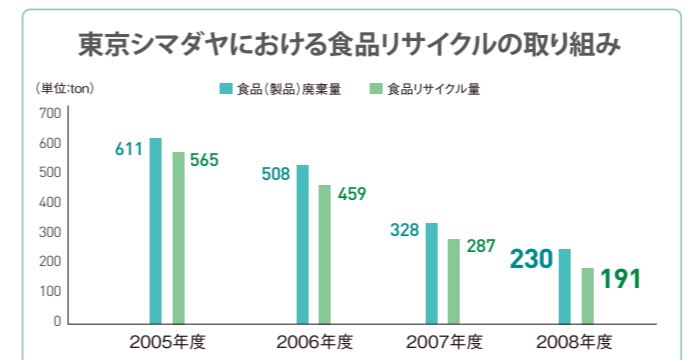
更にソフト面でも、これらの運転方法を検証しながら見直しを行うなど、改善に向けての取り組みを実施しています。また2009年4月より、環境保全の更なる強化を目指すため、ISO推進プロジェクトを立ち上げ、その中で各種の環境対策について取り組みを検討し、実施しています。

更に緑地については、地域環境の改善のため、工場内敷地で失われた部分について2009年6月までに復元工事を行いました。

## 食品リサイクル法定期報告書制度

2008年度より、前年度の食品廃棄物等の排出量が100トン以上の事業者(法人毎)は食品リサイクル法に基づき報告書を提出することになりました。シマダヤおよび各子会社では排出量が100トン以上になるため、それぞれ報告書を提出しました。また、子会社以外のグループ会社に

も排出量の状況を確認し、提出するよう指導を行いました。様々な努力により、食品廃棄物等の排出量は削減されています。法に定める再生利用等実施率は、シマダヤは82.1%、東京シマダヤは87.8%、宮城シマダヤは78.4%となっています。



## 省エネ法特定荷主について

2006年4月1日施行の省エネ法改正において、従来一定量以上の電力、熱利用事業者に対して求められていた省エネルギーの努力義務が、新たに輸配送事業にも適用され、年間の輸送量が3,000万トンキロ以上の輸送事業者並びに荷主は、省エネルギー計画の策定およびエネルギー使用量の報告が必要となりました。

シマダヤは、2008年度において、更なる物流効率化を目

指すため、製造を委託していた一部の企業の輸送分を肩代わりした結果、年間の輸送量が3,000万トンキロを超えることとなりました。これにより法規制に適用される特定荷主に指定されました。

今後のエネルギー使用量の削減計画としては、積載率の向上をはじめとして、製造工場の再編による製造物流の効率化などを検討していきます。

# 社会とのかかわり

環境取り組み以外にも、企業として社会に貢献できることを検討し、少しずつできることから始めています。

## 割り箸の使用禁止

シマダヤでは、研究、開発、品質管理、社内での新商品の説明会、お取引先に対する営業のプレゼンなど、様々なシーンで試食を行います。従来割り箸を使用していましたが、社会情勢を考慮し、割り箸の使用を禁止しました。業務

用商品は、お取引先の卸店様が開催する業務用食品の展示会に出展し、来場者の方へ試食を提供しています。その際も、割り箸ではなく繰り返し使用できる箸で、試食していただいています。

## 中学生の企業訪問受け入れ

今年も中学生の企業訪問を受け入れました。文部科学省の学習指導要領に基づいた、中学生を対象とした企業への訪問学習が増えており、シマダヤでもお手伝いができればと考え、協力しています。

生徒さんへは、企業概要の説明、家庭用商品の紹介を行

い、開発業務の体験をしていただきました。

また、社員から、仕事をする上でのやりがいなどを話し、働く目的や意義を考えるよい機会になったと考えています。



企業訪問での仕事体験のよう



シマダヤ株式会社  
研究開発部  
増淵 菜美子

### 従業員の声

研究開発部の仕事体験として、焼そばソースの試作を行っていただきました。身近なソースですが、実際の原料を見ると、原料の多さに驚かされていました。自分の食べたい味を想像しながら、思い思いに調合し、できあがったソースを試食。自分の想像していた味を再現するのは難しいようでしたが、皆さんでおいしくいただきました。開発の楽しさ、大変さを体験していただけたと思います。

## エコキャップの回収

ペットボトルのキャップをリサイクルに出し、代金を子ども用のワクチン購入にあてる活動があります。約800個がポリオワクチン1本分となり、一人の子の命が救えます。シマダヤでは、2008年11月より社内の自販機の回収BOXの隣に、キャップ専用の回収BOXを設け分別を開始しました。この取り組みは、従業員の子供が通う小学校でのペットボトルを集める運動に協力したのがきっかけで始めました。その後、子会社からも協力があがり、集めたキャップを定期的にエコキャップ推進協会へ送っています。

小さなキャップでも分別すれば資源になり、リサイクルして価値ある材料に変えられます。ゴミとして焼却処分されると、キャップ約400個で3,150gのCO<sub>2</sub>が発生(エコキャップ推進協会調べ)します。ペットボトルのキャップを外すことで、CO<sub>2</sub>を削減できます。

### 今までの実績 (2009年6月末現在)

数量	41.4kg
個数	16,564個(重量換算)
ワクチン	20.7人分
CO <sub>2</sub> 削減効果	130.41kg

# 地域とのかかわり

本社をはじめとした事業所、工場では、地域社会とのかかわりを大切にするため、工場見学の受け入れをはじめ、いろいろな取り組みを行っています。

## 製めん教室と工場見学

東京シマダヤでは、隣接マンションの住民の方々と、子ども達の夏休み期間中に招待し、工場見学とシマダヤ研究開発部による手打ちめんの体験ができる「製めん教室」、子ども達を対象としたレクリエーションを開催して、定期的にコミュニケーションをとっています。

実際の製造工程を見ていただくこと、並びに、ご自身の手で打ったうどんの味を楽しんでいただくことでシマダヤの事業活動や環境への取り組み、「めん」について知っていただく貴重な機会であると感じています。

宮城シマダヤ郡山工場には、近隣の3つの小学校から毎年3年生が見学学習に来ます。作っている製品、原料の説明や気をつけていることなどを説明した後、見学、質問を受けます。「機械は、何台ありますか?」など返答に一瞬詰まる



東京シマダヤ  
製めん教室



宮城シマダヤ郡山工場  
小学生による工場見学

質問も出ますが「この前は、いろいろな事を教えてくれてありがとうございます」から始まる子ども達の手紙に感激しています。

## ベルマークの回収

本社所在地の渋谷区は都心部で、児童・生徒数が減少し、ベルマーク集めに苦勞している学校がたくさんあります。近くのスーパーやコンビニなどに回収ボックスを置いてもらい集めている学校もあります。そのためシマダヤは、2009年度より、近くの小学校のベルマーク回収活動に協力することにしました。普段何気なく捨ててしまう容器包装についているベルマークを集めるよう、本社および他の事業所だけでなく、子会社にも働きかけをしました。

その結果、東京シマダヤ、中部シマダヤより寄付の申し出があり、6月末までに合わせて計315点のベルマークを渋谷区恵比寿西の小学校へ寄付しました。この活動は継続して行い、本社以外の事業所周辺の小学校にも広げていきたいと考えています。



いただいたベルマーク回収のお礼状

## 清掃活動の推進

2008年度から本社前の清掃活動を実施しています。排水溝へのタバコのポイ捨てが目立つため、重点的に清掃しています。社内へその事実を伝え、喫煙マナー向上の啓蒙活動を行っています。



本社前での清掃活動



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

シマダヤ株式会社はチーム・マイナス6%に参加しています。



シマダヤ

# Environmental Report

2009



## 環境報告書に関して

### シマダヤ株式会社

- お問合せ先 CSR 推進室
- 所在地 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西 1-33-11  
TEL.03-5489-5586 FAX.03-5489-5056



この印刷物は、有害廃液を排出しない「水なし印刷」方式を採用しています。またインキには、VOC(揮発性有機化合物)成分フリーのインキを使用し、適切に管理された森林からの原料を含む FSC 認証紙を使用しています。